

リニアで日本の未来は…?!

「リニア中央新幹線を考える集い」

中央新幹線小委員会「中間とりまとめ」を問う！

対 談

* 橋山禮治郎 千葉商科大学大学院客員教授・アラバマ大学名誉教授
×
* 川村 晃生 慶応大学教授（リニア・市民ネット代表）



- * 10兆円の巨大プロジェクト＝リニア中央新幹線
- * 「夢の超特急」は日本経済を活性化できるのでしょうか？！
- * さまざまな課題は克服できたのでしょうか？
- * だからこそ、共に考えてください…皆様のご参集をお願いします。

とき 2011年1月27日（木）14時から16時30分まで
ところ 参議院議員会館1階・101会議室

* 参議院議員会館への入館には通行証が必要です。会館受付にて、実行委員がご案内いたします。通行証がない方は申し出て下さい。尚、開会時間に遅れる等の場合は、各自受付で「田城郁事務所」（907号室）を通じて入館手続きをお願いします。

主 催 「リニア中央新幹線を考える集い」実行委員会
リニア・市民ネット、ガウス・ネット、JR東海労働組合、みどり・山梨
全国自然保護連合

「リニア中央新幹線を考える集い」(院内集会)にご参加を!

実行委員会代表・川村 晃生
(リニア・市民ネット代表)

2007年12月に、JR東海が単独事業としてリニア中央新幹線の建設計画を発表して以来、おおむねその実現への期待が各界に広がり始め、国民の間でも夢の乗り物が実現しそうだとの待望論が出始めています。

そのような状況の中で、国も2010年3月から国土交通省が諮問する交通政策審議会・鉄道部会で関係団体・有識者から意見を聞き、国民からはパブリックコメントを聴取しながら検討が重ねられてきています。一方市民側からもJR東海の計画の内容を検証する動きが活発化してきており、ようやくにしてリニア中央新幹線計画が議論の俎上にのせられつつあるように思われます。

リニア計画には、考えるべき多くの課題があります。JR東海の財政的問題は、その大きな一つの課題でしょう。JR東海が早くも減収を理由に開業を2年遅らせて2027年としたのはそのことをよく示しています。或いは、南アルプスという大断層地帯にトンネルを掘るという危険性と自然破壊、電磁波と生体との関係、エネルギー需要、地域の活性化など議論されるべき課題は山積しています。拙速なゴーサインは、後で取り返しのつかぬ事態を招くはずです。いまは多様な観点から、このリニア問題を議論すべき時ではないでしょうか。

進むにせよ引くにせよ、多面的な情報をもとに、冷静な時間をかけた思考が積み重ねられなければなりません。

この度の院内集会は、正負二つの議論を対峙させながら、リニア計画を熟考する機会として計画されたものです。国会議員をはじめとして多くの方々のご参加をお願いします。

2011年1月吉日

連絡先	ガウス・ネット	〒207-0016 東京都東大和市仲原3-10-1-C201
	代表・懸樋哲夫	TEL042-565-7478 FAX042-564-8664
	リニア・市民ネット	〒400-0014 山梨県甲府市古府中町984-2
	代表・川村晃生	TEL・FAX055-252-0288